

1 発表者 秋葉 明美

2 学校名 福岡県立柳河特別支援学校 病弱教育部門（大牟田分教室）

3 発表テーマ生徒の学習意欲を高める ICT機器の活用について
～タブレット型コンピュータを使った実践を通して～

4 学校概要

本校は、平成22年度から、従来の視覚障害教育に加えて、肢体不自由教育部門、病弱教育部門の三部門をもつ特別支援学校としてスタートした。それぞれの部門の障害種が異なるため、幼児児童生徒の障害の特性や実態、求められる指導内容や教育的ニーズ等も異なっている。そのため、各教育部門・学部等でそれぞれの課題に応じた指導を行っている。

今回、発表を行う本校病弱教育部門（以下、本部門）の生徒は、全員が独立行政法人国立病院機構に入院し、筋ジストロフィー症を有している。また、知的発達や病状の進行等の実態は多様である。長期の入院生活のため、外部の人々との接触や様々な実体験等の機会が不足し、自己に自信がもてず漠然とした将来への不安を抱えている。そこで、生徒が主体的な態度で意欲的に学ぶための手段として、ICT機器の活用を試みているところである。

5 発表概要タブレット型コンピュータを使った3つの実践

①本部門中学部3年A君（単一障害）の実践

「分教室の1日」という、ビデオ作成の過程を報告。自分の登校風景・各教科の授業・下校風景の様子を教師にビデオで撮影してもらい、ビデオ製作用のアプリを使用しながら、タブレット型コンピュータで編集を行い、3分程度のビデオに完成させる取組み。

②本部門高等部2年B君（知的障害を有する生徒）の実践

「作業学習のまとめ」のプレゼンテーション作成と発表までの過程を報告。手指の動きに合わせて、タブレット型コンピュータの機種の大きさを工夫したり、タッチペンを使用したりすることでプレゼンテーションのためのスライドを完成させ、自分で操作をしながら発表を行うまでの取組み。

③本部門中学部3年C君（ベッドサイドで学習を行っている生徒）の実践

呼吸器を装着しているため、ベッドサイドで学習を行っている。タブレット型コンピュータ中のアプリを使用し、自分でタッチをしながら各教科の学習を行う取組み。

6 成果と課題

①成果

生徒が、自らタブレット型コンピュータを操作し、課題に取り組み、その成果を視覚的に実感できることにより、十分な達成感を味わうことができた。このことは、学習意欲の向上にたいへん効果的であると考えられる。

②課題

今後の取組みとして、生徒の教育的ニーズに伴う自主的な活動を、授業とどのように結び付けるのかを検討する必要がある。また、体験的な学習活動とのバランスも考慮すべき課題である。さらに、教師のICT機器に関する知識・技能の向上や、生徒への情報モラルの指導など、取組みが必要な課題は多くある。